異文化を体感　世界に友を得た　成長した自分発見

海外語学研修特集

ビートルズが身近に　マグナ・カルタに出会えるとは　ロンドンは憧れの街だった　楽しかった初めてのディスコ　人種差別がなかった

この体験いつか役立てたい

イギリスというはるか遠い土地で英語を学ぶことができ、イギリス人をはじめ中国人、スペイン人、トルコ人、スイス人などたくさんの国の友達を得ました。また、さまざまな国の文化を肌で感じることもできました。ホストファミリーとの生活もちゃんとできるか不安でしたが、意外にスっと入り込めました。

学校は、中国人6人と同じJTBで来たわれわれ8人での授業でしたが、2週間目に中国人が帰っていきましたので、後の1週間は8人だけでした。授業は分かりやすかったです。昼からのアクティビティーのアウトドアは、ショッピングがよかったです。日本には売っていない雑貨や服がまぶしく目に入ってきました。

休日はエクスカーションに参加、一番良かったのがロンドンでした。BIG BENの偉大さに圧倒されました。そして父が大好きだったビートルズを、以前よりも少しだけ、身近に感じることができました。

この3週間のイギリス初体験で僕は、英語が通じなくても生きられるという忍耐と図太さを得て、もっと勉強しなければいけないという焦りを感じ、いろんな失敗や反省もありで、少し大人になれたようです。この体験を無駄にせず、将来何かに役立てたい思いでいっぱいです。

東日本大震災で苦しい思いをされている方が大勢おられるのに、高校生活で最高の良い体験をさせていただき、心からお礼を言います。

青野立夢（滋賀県）

米語と英語違いに驚き

ソールズベリーに着いた翌日、カプランインターナショナルという学校で試験を受けました。前日から思っていたことですが、自分の英語力が低く、相手の言っていることを理解するのが至難でした。

授業ではライティング、リーディング、スピーキングを満遍なく習い、日本の学校と同じような文法もやりました。また、アメリカ英語とイギリス英語で違う点が多々あり、その度に驚いていました。午後はアクティビティー。スポーツや映画、ショッピングに出かけたりしました。

市内にある大聖堂は中央の尖塔が特徴的でシンボリックな印象を受けました。何とここには、あの大憲章マグナ・カルタがとてもきれいに保存されていて、見とれてしまいました。大聖堂には後日2回訪れました。

週末は団体でいろいろな所に行きました。ストーンヘンジ、バッキンガム宮殿、ウェストミンスター宮殿、ビッグベン、大英博物館、ハンプトンコートetc…。大英博物館では実物のロゼッタストーンを見ることができて感動しました。またストーンヘンジでも舞い上がり、遠近法を用いた写真をたくさん撮りました。

最初はあんなに帰りたいと思っていたのに最後はイギリスに住みたいと思うように――。

池田佑貴（東京都）

みんな悩んだ言葉の壁

イギリス

文法よりも伝える努力

イギリスの生活の中で、私が最も強く感じたのは、言葉の壁でした。

私は英語が嫌いではなかったので、行く前は「行けば何とかなるだろう」という甘い気持ちでした。しかし実際にホストファミリーとの会話や授業の時間では、まず聞き取れませんでした。だから返事をすることができず、黙ってしまう日もありました。もっと勉強して来れば、と後悔した時もありましたが、もう遅いので、正しい文法でなくても伝える努力をしました。友達に、家でどんな会話をしているのかとかいろんなことを聞きました。

伝える努力を始めてからは、家では自分のことを少しずつ話せるようになったし、学校では違う国の友達ができるようになりました。初めの頃は、外国の友達ができるとは思っていなかったので、すごくうれしかったです。そしてだんだん自信が付いてきて、自分からホストファミリーに質問したり、ファミリー同士の会話に耳を傾けるようになりました。

まだまだ全然話せませんが、それでも行った時に比べると、聞き取れるようになったし、話せるようにもなりました。しかし自分の意見や気持ちを伝えることができないという、その経験によって、言葉の大切さとか伝わることの素晴らしさを感じることができました。

この3週間を通して、私は多くのことを学びました。ホームステイをさせてもらえるなんて、多分最初で最後の経験だろうけど、私はあのファミリーで本当によかったし、みんなと行けたイギリスでよかったです。一生の思い出になる最高の夏休みでした。

籠橋葵（岐阜県）

ファミリーの温かさ力に

イギリスの空気、建物、街並み、どれもが私をわくわくさせ、これから始まる生活に希望と不安を抱きつつ、ソールズベリーに向かった。

ホストファミリーは父と母、娘二人と猫2匹、そしてイタリア人のルームメートが私を迎えてくれた。お互いに自己紹介したのだが、名前すら聞き取ることができなかった私は、不安と絶望と緊張で食事も取らず、自分の部屋で一人泣いてしまった。それから数日間はつらかったが、皆が優しく語り掛けてくれたおかげで少しずつ家族の輪に溶け込むことができた。そしてだんだん会話の内容が分かるようになり、コミュニケーションが取れるようになった。

クラスにはフランス、トルコ、オーストリア、サウジアラビア、そして大勢の日本の学生。そんな中での大きな発見は、自分の意見をはっきり持って、臆することなく言葉にする外国人の発言力のすごさだ。私には足りないものばかりで、たくさんの刺激とやる気の姿勢を学んだ。

私が最も行きたかった大聖堂。その外観に圧倒され、内部の荘厳さに目をみはり長い歴史の時間を実感し、イギリスの新、旧を見ることで語学研修参加の喜びを改めて感じた。

この3週間のいろいろ刺激的な経験を通じて最終的には世界中にたくさんの友達を作ることができた。これからは、より広い視野を持ち、必要性を強く感じた英語をしっかり勉強したい。

吉田朋美（長崎県）

「勉強しっかりと」の思い強く

ひとこと　イギリス

この研修で一番印象に残ったのは、新しい仲間と3週間、いろいろなことを体験し、学んだことです。特に週末のエクスカーションが楽しかった。

佐藤香菜（青森県）

イギリスに行き、楽しかったことは皆とのショッピングです。さまざまなお店に入り、おそろいの物を買ったりして楽しかったです。

齋藤好実（秋田県）

私は、外国の人々との触れ合いです。今回仲良くなった友達を、これからも大切にしたいです。

狩野真央（群馬県）

この素晴らしい体験のおかげで、たくさんの友達ができた。これは何よりも宝物だと思う。あの23日間を忘れない。だいすき♡

小暮真理子（群馬県）

大切な友達がたくさんできたこと。たった3週間だけでも、言葉が違っても、みんな私の大切な友達です。

中山穂乃香（東京都）

DISCOです。学校やアクティビティーでは関わりのなかった人たちとも仲良くなれて楽しかったです。

早川結夢（東京都）

僕はアクティビティーです。体を動かすことが好きなので、とても楽しかったです。

半田涼介（東京都）

私は少しでもナマの英語に触れることができたかなと思っています。外国人の友達ができたことが一番の思い出です。

吉田安希（東京都）

ホストファミリーの3歳のジョージに会えたことが一番印象的です。夜、寝かせる時、食事をする時、いつも私のそばにいて、大きな存在になっていました。

田中紅葉（神奈川県）

ロンドンへ行けたことが印象深い。TVや雑誌ではよく目にするけど、一生のうちで行けるかどうか分からなかった憧れの都市に行けてとても楽しかったし、街並みがとてもきれいだった。

赤坂穂之歌（山梨県）

私が一番印象に残ったことは、最後にホストマザーのパットさんがオムレツを作ってくれたこと。すごく温かかったです。

小池ゆう（新潟県）

ソールズベリーにある大聖堂にマグナ・カルタがあり、とても驚きました。まさか1215年の書物に出会えるとは！

堀尾元貴（長野県）

一番楽しかったことは、週に2回のディスコです。最初はなじめず退屈に思いましたが、だんだんと場の雰囲気に溶け込め、外国人とも交流を深めるいい機会となりました。

渡邉圭（静岡県）

いろいろな国の人たちと会い、共通語で会話ができ、友達になれた。世界がつながっている気がしたので、これからもたくさんの人と関わりたい。

鈴木孝二郎（静岡県）

いろんな外国の友達ができて、いろんな国が身近に感じられるようになりました。この関係を大切にし、もっと広げていけたらと思います。

西山貴大（愛知県）

英会話の大切さです。やはり耳が慣れていないのでよく聞き取れないことが多かったです。また単語力不足で自分の気持ちを言葉にすることが難しかったです。

鈴木花奈子（愛知県）

この素晴らしい研修を企画してくださった交通遺児育英会、お世話になったJTBの水野さん、林さん、そして友達に本当に感謝しています。

小林洋輔（三重県）

たくさんの外国の人やホストファミリーと話せたこと。英語で話すのは大変だったけど伝わっていたのでうれしかった。

長屋葵（三重県）

私が最も印象に残っているのはディスコです。初めての経験でもあったし、一つの曲を皆と踊ると一体感があり、楽しかったです。

山本杏奈（和歌山県）

英語力のなさを一番感じました。これからもっと英語を頑張りたいです。

武政紀人（高知県）

充実のソールズベリー3週間

現地の学校での最初の1週間は正直かなり苦痛でした。英語を母国語のようにスラスラと話す他国の留学生に圧倒されたことで、自分の未熟な英会話力を思い知らされ、何度も泣きそうになりました。しかし友達やホストマザーの励ましもあって何とか落ち着き、周りを冷静に見て感じたことがいくつかあります。

会話はまず積極性

まず、英会話に必要なのは堅苦しい文法ではなく、発音、聞き取る力、単語力、そして何より積極性だということです。留学生たちの英語は、めちゃくちゃだったりします。isとwasの使い分けを間違えたり、He haveと言ったり。しかし

彼らは間違いを恐れずに話します。頭で考えるよりも先に声を出しているからこそ会話がスムーズに進んでいるように見えました。逆に日本人は頭で考えてから間違いをしないようにゆっくり話す傾向が、私を含め多くの人にあるように見えました。

3週間目に入った頃から、勇気を出して話し掛けたり、家でも話すことを心掛けました。この積極性を絶やさず日本での学習では進んで英語を話す機会をつかんでいこうと思います。

英米文学学びたい

大学に進学したら英米文化の、主に文学を掘り下げて学びたいという思いが強くなりました。

菅井理歩（静岡県）

私は昨年、修学旅行でイギリスを訪れていますが、今回はホームステイをするということで、出発前のホテルで急に心配になってしまいました。しかし、心配するだけ無駄だったなぁと感じました。イギリスの人たちは、分かりやすくゆっくり話してくれましたし、ルームメートも辞書を使いながら話してくれてとても親切だったからです。ルームメートは、最初が

ルームメートと涙の別れ

ブラジル人の大人っぽい女の子・マリアーナ、二人目はフランスから来たターニャでした。ターニャとは、一緒に遊んだり、ミサンガを作って交換したり、とてもいい思い出ができました。お別れの時、泣きながら「フランスに遊びに行くね」と伝えたらターニャも泣きながら「また会えたらうれしい」と言ってくれました。私は今までこんな気持ちになったことがありませんでした。

この3週間は、私にはぜいたく過ぎる日々だったと思います。人との出会いは、まるで時間のようだと思いました。時間が人と人を引き合わせてくれるのなら、その瞬間の価値はどんな宝石よりも輝きを増すと思いました。過ぎ去った日々がこんなにも美しく、輝かしいものだと、教えてくれたのが今回の研修だったと思います。

十代は物事を一番吸収しやすい多感な年ごろです。だからイギリスに行こうか迷っている人がいれば、行くことをお勧めします。

矢部もも（茨城県）

ひとこと　イギリス

他の国の人と友達になることができ、イギリスだけでなくいろいろな国の文化を知ることができて、もっともっと英語が好きになりました。

岡田萌（大阪府）

私はイギリスと日本の文化の違いをとても感じました。そして、それぞれの国の良さが分かり、大変勉強になりました。

木下莉沙（大阪府）

スタッフが企画してくれたパーティーで出店をしたり、ムースを顔に塗り合ったり、他国籍の人とスポーツをして楽しんだことです。

田中愉里奈（大阪府）

一番驚いたことは人種差別がないことです。店の中も、テレビの中でも黒人や白人が入り混じる、日本にはない光景に驚きました。

森澤光梨（兵庫県）

カナダ

クラス全員自慢の宝物

スーセントマリーで過ごした1カ月、それは私にとってとても貴重であり、自分を成長させてくれた忘れられない時間となりました。

私のホストファミリーはグランマー一人だけ。でも空港で温かく迎えてくれました。うれしくて安心すると同時に笑顔を忘れず生活していこうと決心しました。そして斜め向かいに住む娘さん一家4人とも毎日のように交流していました。

外国人のクラスメートたちは皆、日本に興味を持っていました。「テクノロジーが発達しているからカナダの次に好きだ」と言っていたり、日本食が好きで「すし」と書いたTシャツを着ていたり、五十音を覚えていたり……。一緒に笑い、学び、助け合い、楽しい思い出を作ったクラスメート。これは私にとって自慢の宝物です。

私は、英語が話せなくても伝える方法はいっぱいあること、自分を成長させることには自分でトライすることなど、たくさんのことを学びました。この研修で異文化に触れ、広い視野を身に付けられたと思います。この滅多に得られない貴重な体験を今後に生かしていきたいと思います。

Thank you.

浅野里緒菜（宮城県）

笑顔や涙で交流深める

カナダへ着いた時、乗り換えの飛行機が飛ばないという放送が流れました。しかし、なぜ飛ばないのか、代わりにどの飛行機に乗ればいいのかが理解できず、近くにいた日本人に助けてもらうといったありさまでした。日本で学習している英語では、この先1カ月、どう生活していけばいいのか不安になりました。

しかしhost familyと会い、その不安はすぐに消えました。私が理解できない会話を細かく説明してくれたり何度も言い直してくれました。私は少しでも理解できるように努力しようと決心しました。ですからESL（学校）、放課後、そして休日でも、買い物にスポーツに外国の友達と交流を深めることができました。

楽しいこともたくさんありましたが、その分、困難にも出遭いました。しかし、笑顔や涙は、国に違いはあっても気持ちを伝え合うことができる、また、何事も積極的に行うことで相手も受け入れてくれる――ということを学びました。

海外語学研修は決して簡単なことではありませんでした。しかし、さまざまな経験を通して自分自身が大きく成長することができたので、参加して良かったと心から思います。

浅野恵里奈（宮城県）

あしながおじさんのお便り

子どもたちの未来のために

運送会社勤務です。交通災害に遭われた方、特に遺児の方には、何か力になる方法はないものかと考えていました。今回、東日本大震災により、募金が減額になるのではないかと心配しております。

（佐渡市　A・Iさん）

☆　☆

過日、思いがけないところから、米寿のお祝いのしるしとして記念品代が届き、「希望の品に換えてご愛用ください」とありました。心からありがたく思い、感謝の念でいっぱいでした。しかし今さら欲しいものはないし、東日本大震災の被災者や親御さんを亡くされ頑張っておられる皆さんを思い、これが最高の使い方だと考え、そっくり送金いたします。

（宇部市　T・Nさん）

☆　☆

車内事故に遭い、3回手術をしましたが、両手に不自由さが残りました。損保から通院費としてもらったお金です。これをもらっても癒えるものでもなし、お役に立てていただきたいと思い、貴会に寄付することにしました。もうすぐ89歳、お金があっても何の使い道もありませんので。

（広島市　M・Mさん）

☆　☆

公共交通の主管課であるため何らかの協力をしたいと考えておりました。公共交通利用促進実行委員会を立ち上げ、イベントに出展した際、募金したものを送金します。

（広島県府中市）

☆　☆

今年の夏は例年になく厳しい環境です。大震災と原発事故は日常を奪いました。幸い私は働き続けていられるので、今後も続けていきます。子どもたちの未来をつなぐために少しでも貢献を。

（福島県　N・Kさん）

☆　☆

例年通り、わずかですが寄付いたします。東日本大地震で孤児になった方を援助なさっているようでうれしく思います。

（奈良市　I・Yさん）

☆　☆

日本中で今まで経験のないことが起きています。自分のために日本のために勉強してください。一生懸命生きてきましたが、若者たちのために日本を救いたいです。

（横浜市　S・Mさん）

あしながおじさん募集中

川遊びや花火　夏の自然満喫

東京寮キャンプ

真夏の自然を満喫したキャンプ

7回目を迎えた心塾東京寮のサマーキャンプは、8月6日から1泊2日、山梨県北杜市の篠沢大滝キャンプ場で行われた。今年は塾生、卒塾生、職員ら33名が参加、真夏の自然の中でイベントを楽しんだ。

あいにく天候には恵まれず、大武川の水温はかなり低かったが、それでも塾生らは泳いだり、飛び込んだり思いっきり川遊びに興じていた。

てこずったのは食事。日ごろ調理をすることがないため、慣れぬ手つきでの作業だったことに加えて、途中から雨が降り出し、思うように火起こしができなかった。それでも出来上がった料理に参加者全員が舌鼓を打った。また、夜は定番となっている花火に、童心に帰って大きな歓声を上げていた。

短いキャンプだったが、日ごろ接触の少ない塾生と卒塾生、職員が親睦を深めるには絶好の機会だった。

（文　佐藤良）

関西寮生と面談

大阪、32人が出席

本会は今年度も7月23、24、30日と2週にわたっての3日間、大阪市内のホテルで定期面接を実施＝写真＝、全寮生34人中32人が出席した。

東京本部から出向いたのは石橋健一専務理事ら4人、寮生活や学校生活、進路などについて聞き取りを行った。来春卒業となる4年生の中で、いまだ厳しい就職戦線で戦っている学生たちには、状況を聞き、適切なアドバイスを与えていた。